

9:30-12:00 分科会ダイジェスト 11月1日、2日で開催される19件の分科会の報告と振り返りをします。

13:00-13:50 講演会

「自然体験活動の可能性」

日本人初、世界29人目となる8000m峰14座完全登頂を果たしたあと、様々な対象に対して自然体験活動をされています。プロ登山家の竹内さんが何で自然体験に目を向けているのか？ この後のパネルディスカッションにも参加いただけます。

講師



竹内 洋岳
(プロ登山家、株式会社ハニーコミュニケーションズ所属、立正大学客員教授)
日本人初、世界29人目となる8000m峰14座完全登頂を果たす。現在は、未踏峰への挑戦を続ける傍ら、登山経験を生かし、野外教室や防災啓発などの社会貢献活動にも取り組んでいる。

13:50-14:20 ブレイクアウトルームを使った共有

14:30-15:45 パネルディスカッション

「自然体験活動のこれから」中堅～若手の経営者・指導者による次世代トーク

全国各地の様々なフィールドで、社会問題や地域資源の活用等をテーマに活動している4名のパネリストによるそれぞれが思い描く「自然体験活動のこれから」について主宰者としての立場で語っていただきます。

モデレーター



山田 俊行 (トヨタ白川郷自然学校 校長、CONE副代表、JOLA運営委員長)
1997-2004年森林たくみ塾、2004年-NPO法人白川郷自然共生フォーラム、2011-2013年安藤百福記念自然体験活動指導者養成センター事務局、2015年-現職。

パネリスト



戸高 諒
(一般社団法人畑とキャンプの自由な学校みんなの学校)
在学中に自然スクールエックと出会い、研修生を経てフリーキャンプを軸とした自然体験団体を立ち上げる。キャンプ事業フリースクール事業を主に行う一般社団法人畑とキャンプの自由な学校みんなの学校代表理事。



和田 祐樹 (ホールアース自然学校福島校代表/一般社団法人成蹊-MICHINAS代表理事 他)
在学中にAUSの5人しかいない島で自然の驚異を実感して自然教育の道へ。震災後に地元福島県にて福島校を社内起業。福島大学や県立高校の現場で、地域づくりや探究学習に関する実践を共に行う。



細川 和朗 (NPO法人自然体験共生センター 理事長)
大学進学後、学生主催のキャンプ運営スタッフへの参加をきっかけに180度人生が変わり、自然体験活動の道へ。現在は野外活動のほか、防災・減災教育にも取り組む「自分自身の力を信じ、挑戦することの価値を伝える」ことをテーマに日々実践を重ねる。



福元 豪士 (公益財団法人屋久島環境文化研修センターインストラクター/NPO法人HUB&LABO Yakushima代表理事)
屋久島ネイチャーガイドアベレイ、森のようちえん担当卒業。マルチワーカーとして活躍。

15:45-16:00 閉会セレモニー [主催者あいさつ・未来への宣言]

16:00 終了

お申し込み

右のQRコードからお申し込みください。

<https://coneforum20212.peatix.com/>

※本シンポジウムは合計5日間の開催となりますが、たとえば分科会一日のみなどの参加の仕方も可能です。その場合でも参加費は変わりませんのでご承知願います。



●詳細はCONEホームページ及びFacebookからご確認いただけます。



CONEホームページ
<https://cone.jp/2021/09/17/14568/>



CONE Facebook
https://www.facebook.com/events/580589446468399/?event_time_id=580595683134442

国際シンポジウム「自然体験活動のこれから」実行委員会

【委員長】 佐藤 繁一 (NPO法人国際自然大学校/CONE運営委員会)
河原塚 達樹 (一般社団法人日本カップ協会/CONE運営委員会)
小林 孝之助 (アウトドアチャレンジ協議会)
井上 仁人 (山梨県キャンプ協会)
今宮 則子 (NPO法人海の自然史研究所/(有)ちむちむらさ)
小川 将友 (いしかわ自然学校/環境教育事務所ネイチャーブランドプランニング)

金澤 貴代美 (株式会社ON-WIPPS)
倉持 武彦 (森環境教育事務所)
小林 政文 (ホールアース自然学校沖縄校がじゅまる自然学校)
土居 元 (土居自然学校)
鳥屋尾 健 (公益財団法人キープ協会 環境教育事業部)
藤村 哲 (体験創庫かけはし)

※この活動では、子どもゆめ基金への報告のために写真撮影を行います。提出された個人情報(写真)は「(独)国立青少年教育振興機構が保有する個人情報の適切な管理に関する規定」に基づき、子どもゆめ基金助成業務以外の目的には使用されません。

※本事業の開催日が、今後発出される「新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言」の期間内となり、行政指導による開催自粛を求められた場合には中止せざるを得ないことを予めご了承願います。

お問い合わせ NPO法人 自然体験活動推進協議会 Council for Outdoor & Nature Experiences

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1 国立オリンピック記念青少年総合センター内

TEL: 03-6407-8240 FAX: 03-6407-8241 E-mail: info@cone.jp

*お問い合わせ: コロナ感染拡大予防対策として時短勤務となっていることから、できる限りメールでお願いします。



国際シンポジウム
自然体験活動の
これから

NPO法人 自然体験活動推進協議会 20周年記念事業

10/30(土)
13:00-
これまで

10/31(日)
9:00-
いま

11/1(月)
9:30-
いま

11/2(火)
9:30-
いま

11/3(水)
9:00-
これから

世界的な新型コロナウイルス禍の中、アウトドアブームとなっている日本では野外活動への社会的興味関心が高まりつつある。そこで、国際シンポジウム「自然体験活動のこれから」として、これからの自然体験活動のあるべき姿を世界的視点から探り、また、長きにわたり教育的側面から取り組んできた自然体験活動の変遷を振り返ると共に、現代社会を取り巻く様々な課題を明確にし、その解決の為のヒントを得る。

日程 2021年10月30日(土)～11月3日(水・祝)

会場 対面 及び オンライン

《対面》国立オリンピック記念青少年総合センター 研修センター棟403(1日目、2日目)、研修センター棟307(5日目)、(東京都渋谷区代々木神園町3-1)

《オンライン》Zoom(テレビ会議システムを用いたオンライン開催)
※新型コロナウイルス感染拡大によっては全ての活動がオンラインになる場合があります。

参加費 一般:4,000円/学生:2,000円

※[会期中] 全体会、分科会、情報交換会等への参加ができます
※[後日] 全体会、分科会の録画を視聴できます

定員 100名(定員になり次第締め切りとなります)

主催 NPO法人 自然体験活動推進協議会(CONE)

お申し込み方法は裏面へ

1日目 10/30(土) 自然体験活動の「これまで」

13:00-14:00 開会式、来賓ご挨拶、オリエンテーション

【基調講演】「自然体験活動の歩みとこれから」

自然学校の提唱者で、自然体験活動の発展と共に歩んで来られたことから過去だけでなくこれからの自然体験活動についてもお話いただけます。

講師



岡島 成行 (NPO法人自然体験活動推進協議会会長、NPO法人日本環境教育フォーラム会長、学校法人青森山田学園理事長)
1989年 大学卒業後、上智大学卒。1969年読売新聞社入社、社会部、解説部を経て1999年退社。青森大学大学院教授、大妻女子大学教授を経て2014年から現職。中央教育審議会委員、社会資本整備審議会など歴任。東京大学農学部博士。

14:00-15:20 全体会①

【パネルディスカッション】「実務面からの自然体験活動」

自然体験活動の普及促進を中心的に支えてきた自然体験活動推進協議会の歴代事務局長から当時の自然体験活動の実践についてお話いただけます。

モデレーター



山田 俊行 (トヨタ白川郷自然学校学校長、CONE副代表、JOLA運営委員長)
1997-2004年森林たくみ塾、2004年-NPO法人白川郷自然共生フォーラム、2011-2013年安藤百福記念自然体験活動指導者養成センター事務局長、2015年-現職。

パネリスト



桜井 義維英 (国際自然大学校/走林社中/自然・文化・創造 研究所)
国際自然大学校理事。また、自然体験活動推進協議会事務局長、千葉自然学校・大房町少年自然の家所長、国立赤城青少年交流の家所長、あしなが育英会事務局長を歴任。



重 政子 (NPO法人持続可能な開発のための教育推進会議 代表理事、環境パートナーシップちば 理事)
元(社)ガールスカウト日本連盟 教育部長、元ユネスコ国内委員会委員、元中教審教育審議会青少年部会委員、(一社)協力隊を育てる会 理事。



降旗 信一 (東京農工大学農学部 教授)
元社団法人日本ネイチャーゲーム協会理事長。



大田原 康志 (一般財団法人あしなが育英会)
1989年 大学卒業後、コンピュータネットワーク機器のソフトウェア開発やマーケティング業務を複数社で経験。2003年NPO法人自然体験活動推進協議会。2015年 一般財団法人あしなが育英会。



村松 真哉 (公益財団法人ハーモニーセンター 代表理事)
コーディネーター育成プログラムオーストラリア派遣団(青少年分野) 団長、中青連、スポーツ安全協会、日本キャンプ協会、全国乗馬倶楽部振興協会の役員を歴任。



15:30-17:00 全体会②

【対談】「自然体験活動のこれまで」

全国でいち早く自然学校を設立した佐藤初雄氏がホストとなり、長きにわたり地域の支援を得て様々な課題解決の為に自然学校を活用してきた「レジェンド」をゲストにお迎えし、たぶん「掛け合い漫才」のようなお話をいただきます。

ホスト



佐藤 初雄 (NPO法人国際自然大学校理事長/NPO法人自然体験活動推進協議会代表理事)
1983年4月国際自然大学校を設立。以来、30年以上にわたり、子どもと大人に自然のなかでの冒険の楽しさを伝えている。

ゲスト



皆さんをアツと言わせる「レジェンド」を現在調整中です。お楽しみに!

18:30- オンライン情報交換会

ゲスト 《おたのしみ》

2日目 10/31(日) 自然体験活動の「いま」

9:30-12:30 全体会③ 国際シンポジウム

【パネルディスカッション】「コロナ禍における世界の自然体験活動」

この約2年間にわたり世界中が新型コロナウイルス感染拡大防止施策により、様々な行動制限が課せられてきました。その中で日本を含め世界4か国の自然体験活動に従事している指導者にお集まりいただき、コロナ禍での活動状況についてお話いただけます。また、ワクチン接種の普及と共に行動制限も緩和されつつある状況で、これからの自然体験活動のあるべき姿についても語っていただけます。普段では聞けない話ばかりだと思いますので、乞うご期待ください。

パネリスト



中国 朱 惠雯 (日中市民社会ネットワーク 事務局長)
環境・高齢者・災害支援などの分野において、日中間で視察、研修、キャンプなどを企画・実施し、民間の交流・連携を促進してきた。



シンガポール マルコム・タン (法律コンサルタント、ボイスカウトシンガポール連盟)
法律コンサルタントとして青少年保護問題に携わり共にアジアの大自然を舞台にした体験活動をボーイスカウト活動を含め展開している。

進行



今宮 則子 (NPO法人海の自然史研究所)
海洋科学をひもとく、環境教育・科学教育で社会へ伝えています。



鳥屋尾 健 (公益財団法人キープ協会)
八ヶ岳で環境・教育・観光・国際・地域・ESD等のテーマで活動。

通訳



Mari Nakano (フリー)
世界各国での通訳経験が豊富。

3日目 11/1(月)

定員表記がない場合は、何名でも参加できます。

9:30-21:00 分科会① 全てオンライン(ZOOM)で実施します。

9:30-11:30

アフター・ウイズコロナ時代のエコツーリズム 定員:20名

エコツアーはこれからどんな価値を生み、何を指すのか。アフターウイズコロナ時代の観光のあり方から、エコツーリズムの未来を考えます。



敷田 麻実 (北陸先端科学技術大学院大学 教授)
石川県水産課技師、金沢工業大学環境システム工学科教授、野生生物保護学会会長、北海道大学観光学高等研修センター教授を経て現職。

日本とアメリカの自然体験を比べてみると!

日本とアメリカでは子どもたちの自然体験活動に大きな違いがあります。野生生物をテーマに両国を比較しながら、お話させていただきます。



川原 洋 (一般財団法人 公園財団/公園管理運営研究所 開発研究部 環境教育推進室 室長/Project WILD日本代表コーディネーター)
米国で開催されるProject WILD コーディネーター会議に毎年参加し、2019年「最優秀コーディネーター賞」を受賞。

南極越冬隊ごぼれ話

昭和基地での生活や南極での野外活動、日本の観測隊の取組などを映像を中心に紹介します。経験談のほかにも南極クイズもあります。



倉持 武彦 (森環境教育事務所、倉持ガイド事務所)
2002年 スキーと織で北極点到達(ロシア博物館ツアー)。2007年 ヒマラヤ未踏峰6700mへ挑戦。2004-2018年 西丹沢ビジターセンター勤務。2018-2020年 60次南極観測隊に越冬隊として参加。現在、倉持ガイド事務所として山岳ガイドなどを行う。



土屋 達郎 (ペンション黒姫高原ふはり亭 代表/日本山岳ガイド協会 登山ガイドステーションII)
岐阜県で自然体験や登山ガイドとして働いたあと2016年から南極観測隊の越冬隊へ参加し、帰国後の2019年から長野県でペンション「黒姫高原ふはり亭」を開きました。東京出身の55歳です。

13:00-15:00

オノギ式「この花病」治療法

「この花は何ですか?」の質問から広がる自然体験。自然観察指導を始めて59年目の講師が、自然観察会の妙技をお話します。



小野木 三郎 (岐阜県博物館協会顧問)
岐阜大学文学部卒業。
小中学校理科教師。
高山短期大学飛騨自然博物館学芸員。
飛騨高山ふるさとを歩こう会代表。

世界とつながり、足元からはじめる〜東アジア地球市民村という場〜

東アジアの国々で文化交流を展開。グローバルな視点で自然体験の未来が広がります。



朱 惠雯 (日中市民社会ネットワーク 事務局長)
2001年に来日、留学中から日中韓環境NPOおよび社会起業家の交流活動に参加。2014年から「東アジア地球市民村」を企画・運営。

15:30-17:30

多文化教育と国際理解教育

2006年より宿泊形式の多文化交流イベントを毎年開催。イベントを通じて見えてきた、日本の中の多文化状況についてお話します。



小貫 大輔 (東海大学 国際学科 教授)
2003-2005年 ブラジル「平和のための初期の子ども時代プロジェクト」/JICAによる専門家派遣をはじめ健康教育に携わる。

食が変われば全ての子どもの未来が変わる〜腸内環境と発達障害とアレルギーの関係そして野外活動での実績〜



辻 幸一郎 (社安全食品株式会社代表取締役、内閣府食品安全モニター、健康医療コーディネーター、一般社団法人天才の御理事、アレルギー検査協会理事)
「アレルギー体質は素晴らしい能力だ」という信念の元、子供たちの支援を行っている。

19:00-21:00

コロナ禍に合わせた感染対策や情報発信

沖縄の自然学校運営での感染対策・情報発信の実践事例を紹介。より良い運営のためのポイントや導入課題について考えていきます。



丸谷 由 (国際自然大学校沖縄校(ネコのわくわく自然教室)マネージャー)
2000年ネコのわくわく自然教室設立。2010年国際自然大学校沖縄校として運営開始。琉球大学や近畿大学等で非常勤講師を務める。

一瞬にひらく無限〜自然とひとの共振から

登山中に撮った山や自然の一瞬の写真を通して、「一瞬の共振から生まれる場の無限」について対話し、深めてゆければと思います。



戸高 雅史 (登山家・野外学校FOS&そらのほとり代表)
世界2位のK2峰(単独遠征)はじめ8,000峰4座に無酸素登頂。青少年やファミリー向けの野外学校FOSを運営して27年目。

農林業、建築、狩猟を本業とする自然体験施設

自給自足の暮らしを生業に、宿泊・レストラン・自然体験ガイド・ツアーを運営。コロナ禍でも安心感と学びのある運営について話します。



藤原 誉 (田舎舎 代表)
田舎暮らし歴27年、ラフティングおよびアウトドアガイド歴26年、農薬歴26年、建築歴28年、狩猟歴22年。

4日目 11/2(火)

定員表記がない場合は、何名でも参加できます。

9:30-21:00 分科会②

1分科会はオンデマンド配信ですが、他は全てオンライン(ZOOM)で実施します。

9:30-11:30

屋久島発 自然体験×地域×コミュニティ

自然体験と地域づくりに境目はない!屋久島で育ったやっくんと、知床で育ち移住したちーちゃん。目下2児の子育て中。小グループでの対話を通して、可能性を探ります。



福元 豪士 (公益財団法人屋久島環境文化研修センターインストラクター/NPO法人HUB&LABO Yakushima代表理事)
屋久島ネイチャーガイドアベレイ、森のようちえん担当卒業。マルチワーカーとして活躍。



福元 知晶 (鳥子屋代表/NPO法人 HUB&LABO Yakushima)
離島に新しい放課後をつくる「鳥子屋」、フリーランスとして活動開始開始。

9:30-21:00 オンデマンド配信

オプティマムヘルスからみた自然

最適な健康を意味するオプティマムヘルスを中心に、統合医療や自然欠乏症候群、リトリートなど、至適な自然との関わりを考えたい。



山本 竜隆 (WELLNESS UNION(朝霧高原診療所・富士山静養園・日月倶楽部)代表/昭和大学医学部客員教授)
聖マリアノ大学医科大学、昭和大学医学部大学院卒業、米国アリゾナ大学医学部統合医療プログラムAssociate Fellow(2000年~2002年)修了。中伊豆温泉病院内科医長、(株)小糸製作所静岡工場診療所所長・産業医

これからの社会に自然学校が果たす役割 定員:10名

福島県で農的自然学校を展開しており、原発事故後に立ち上げた子供たちへの取り組みなど、自然学校が社会に果たす役割などを、皆さんと共有できたらと思っています。



進士 徹 (一般社団法人あぶくまエヌネット代表理事)
社会福祉法人ねむの木学園、山村留学「竹とんぼ学園」、あぶくま自然大学、NPO法人あぶくまエヌネット、一般社団法人あぶくまエヌネット。

13:00-15:20

スマホでできるオンラインエコツアーのやり方・考え方 定員:20名

既存のサービスをスマホひとつでオンライン化できるやり方だけでなく、オンラインサービスを作り上げるために必要な考え方もお伝えします。



久松 信介 (インタープリター)
環境コンサルを経て、2008年~ホールアース自然学校(柏崎・夢の森公園勤務)。2016年茨城へUターン後は幼稚園での出張授業や、グリーンツーリズムの振興に携わる。コロナをきっかけにオンライン配信やSNS発信に力を入れている。

15:30-17:30

「保育×環境教育」情報交換会

保育現場で環境教育・自然体験活動が求められる今、具体的にはどんな取組や課題があるのでしょうか。さらに普及させていくためのヒントを探ります。



増田 直広 (鶴見大学短期大学部保育科講師、(公財)キープ協会環境教育事業部客員首席研究員)
2001年より埼玉大学、都留文科大学、日本大学、関西学院大学、帝京科学大学などの非常勤講師。2021年より鶴見大学現職。

森という場の可能性〜森×教育・健康・観光〜

林業分野で注目のキーワード「森林サービス産業」の視点から森という場がもっている力が、人と人、人と自然の対話と気づきを促します。



木俣 知大 (開きとゆめシニアコンサルタント/「森林サービス産業」活動支援事業事務局)
東京農業大学大学院修了。(NPO)森づくりフォーラム、(公社)国土緑化推進機構を経て、(株)ユニバーサルデザイン総合研究所 主任研究員ほか、二つの大学で研究員を務める。

19:00-21:00

実践と研究の融合を目指して 定員:30名

この分科会では、これまでの「研究」を紐ほどき、研究計画を立てます。「研究」を身近に感じて頂き、実践と研究の融合を目指しましょう。



徳田 真彦 (大阪体育大学)
2016~2019年 北翔大学 講師。
2019年~現在 大阪体育大学 講師。



佐藤 冬果 (東京家政学院大学 児童学科・助教)
筑波大学生物資源学類卒業、同大学院体育学・大学体育スポーツ高度化共同修了。2021年~現職。



福富 優 (至学館大学短期大学部・助教)
2009年 信州大学教育学部卒業。
2011年 信州大学大学院教育学研究科修了。
2011年~国立山岳青少年自然の家職員。
2016年~現職。

棚田を活かした15年間の自然体験活動の実践

「棚田を未来の子どもたちにつなぐために」棚田を活かした食の安心安全、命の大切さ、地域の素晴らしさを伝え、思いを持った担い手として、棚田ファンを拡大してきた取組を紹介します。



永菅 裕一(棚田くん) (NPO法人棚田LOVER's 理事長/古民家しるめて代表)
NPO法人棚田LOVER's、古民家しるめて。



NPO法人 自然体験活動推進協議会 (CONE) は、『自然体験活動憲章』に基づいて自然体験活動の推進と普及を行っています。自然学校をはじめとする自然体験・アウトドア・環境教育などの分野で活動している全国の団体が構成される国内唯一最大のネットワーク組織です。



自然体験活動憲章

- 一、自然体験活動は、自然のなかで遊び学び、感動するよろこびを伝えます。
二、自然体験活動は、自然への理解を深め、自然を大切に育ち育てます。
三、自然体験活動は、ゆたかな人間性、心のかよった人と人のつながりを創ります。
四、自然体験活動は、人と自然が共存する文化・社会を創造します。
五、自然体験活動は、自然の力と活動にともなう危険性を理解し、安全への意識を高めます。

